

古事類苑

人部三

親戚下

乳母爾人

〔倭名類聚抄子孫〕子 孫恤云、子即里息也、一云呂公曰、臣有女、願爲箕箒妾、

〔箋注倭名類聚抄子孫〕廣韻云、子子息、說文、子十一月陽氣動、萬物滋生、以爲稱象形、李陽水曰、子在

襁褓中足併也、釋名、子孳也、相生蕃孳也、白虎通、子者孳也、孳々無已也、廣雅、子孜也、孜與孳同、同高

祖本紀、在史記第八原書箕上有季字、此蓋刪節、太平御覽引亦無、原書箒作帚、按廣韻云、箒俗、

〔伊呂波字類抄人倫〕子子、養子、息子、庶子 兒 息已上同

〔東雅人倫〕子コ 女ムスメ 舊說に子といふは男之通稱也と見えたり、さらばコとのみいふは

男子なる也、父母に對し言ふには、男子女子總稱してコといふ、男子女子を分ち稱するには、男子

女子をムスメといふは生女也、古語に凡物を生ずるをムスといふ、舊事紀日本紀等に、産の字

讀でムスといひ、萬葉集に、生の字讀でムスと云ひし、即是也、長子をエヒコといひ、長女をエノメ

といふ事、日本紀に見え、季子をばヲトゴといふ事、延喜式祝詞に見えたり、式には弟子のエとい

ふは兄にて、ヲといふは弟也、亦稚子をワカコといふ、古語拾遺に、日神常に吾勝尊を御腋に懷き

給ひしを、ワキコと申せし語の轉じて、ワカコといふ也と見えたり、されど古の神の名及び人名

に別ワといひしも聞えて、萬葉集抄には、ワケといふは男子の稱也と見えしかば、ワケといひワカ

といふ、即是轉語にて、凡男子の通稱なりしにぞあるべき、俗に若子の字を用ゆるは、もとこれ弱

子